

第2回大田区男女共同参画推進区民会議 議事録（要旨）

日 時：令和7年9月1日（月）午後4時から午後6時

会 場：本庁舎 5階 特別会議室

参加委員：萩原委員（会長）、小山委員（副会長）、高瀬委員、岩下委員、望月委員、
鷺家委員、長村委員、立石委員、金田委員、古澤委員、村尾委員

事務局：総務部長、人権・男女平等推進課長、人権・男女平等推進担当係長、人権・男女平等
推進担当主査、蒲田生活福祉課自立支援促進担当係員

資 料：・資料1 第9期大田区男女共同参画推進プランの骨子案

・資料2 第9期大田区男女共同参画推進プランの体系案

1 開会

2 前回欠席委員の紹介

3 会長あいさつ

4 資料確認

5 議事

（1）第9期大田区男女共同参画推進プランの骨子案について

事務局より説明。

- ・日本のジェンダー・ギャップ指数が低い理由を教えてください。（高瀬委員）
→骨子案6頁に記載のとおり、健康や教育分野では高い順位となっているものの、政治、経済分野で女性の参画が少ないため総合順位が低くなっていると考えられる。（事務局）
→4つの分野ごとに指標が設定されており、比較的健康や教育分野の数値が高くなっているものの、指標によって数値にばらつきが見られる。政治分野では衆議院議員の人数、地方の政治への女性の参画が少ないことが、経済分野では賃金格差、女性の正規登用、社外取締役が少ないことが順位を下げている。そうした指標の紹介があるとわかりやすいのではないかと。また、SDGsの順位も目標5の達成度が低いことから下がっている。（萩原会長）
- ・困難を抱える女性にフォーカスされているが、男性でも困難を抱えている人が問題となっている。この会議の立場としては女性支援が大きな命題だが、時代を見ると男女で分ける必要があるのか。（金田委員）
→新たに「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行したことからこの項目が追加されたと考えられる。男性の困難を包含するとすれば、ジェンダーの視点で見た男性の孤立孤独の問題も注目されているため、困難な問題を抱える区民への支援に取り組むとして孤独・孤立対策推進法と女性支援新法を並べても良いかもしれない。（萩原会長）
→女性支援新法に基づく項目として設定している。個別目標2-1はこれまで女性に対する暴力としていたが、男性のDV被害も増えてきていることや国の表記を踏まえて、今回からジェンダーという表現を用いて男性被害も含めた記載としている。個別目標2-2については法律名を基にしているが、そこにこだわることなく検討していきたい。（事務局）
- ・例えば、避難所運営や防災分野の女性登用について、実際には充て職で決められていることがあるため男性ばかりになっている。そうしたところに防災担当課からの働きかけは行っているのか。この計画ができることで今後関係課に取組を促すことになると思うが、こういった立案があつて何を行ったかを見えるようにし

てほしい。（金田委員）

→現行計画に対し、本計画では、防災に関する取組を個別目標としてレベルアップさせた。本計画の策定にあたり、防災機器管理課と協力して、具体的事業を掲載し、見える化していく。（事務局）

- ・内閣府でも男女共同参画のガイドラインを策定しているためそれを踏まえて検討してほしい。防災会議への女性の参画が非常に重要になるため、町内会、自治会の意思決定の場における女性の参画が必要であり、連携が要となる。（萩原会長）
- ・町会の役員について、女性はいつも家にいる人は引き受けてくれるが、男性は仕事終わりでないと対応できないため、夜8時からの活動に変更した。町会でも男性の参画促進のために取組を模索しているため、色々のご意見をいただきたい。

（小山委員）

- ・第4章に具体的な取組を掲載しないと説明があったが、色々な部局と連携していく点が区民側から見えにくいいため、そうした旨を記載してほしい。（古澤委員）

→事業を掲載する際、その事業の所管課も併記するため、各部局との連携は資料編に掲載予定の関係課一覧で確認ができる予定となっている。（事務局）

- ・関係課との連携体制等をわかりやすく示せると良い。（萩原会長）
- ・DVに関する相談先やデートDVの認知度が低い理由と、相談件数が少ない、相談しづらい理由を教えてほしい。（望月委員）

→デートDVの内容としては、身体的な暴力だけでなく交際相手から威圧的な話し方をされる、位置情報で束縛されるといったことも該当する。それに気づかない被害者もいる。セミナー等を行って若年層に対しても啓発を進めている。（事務局）

- ・デートDVという言葉ができて20年程経過し、学校で研修を行うようになってきている。男子校でもそうした啓発が進んできているため徐々に良い影響が生じるのではないかと。デートDVに関連したコラムを入れてほしい。（萩原会長）

→相談しづらい理由は一概には言えず難しいが、匿名の相談を受け付けていることなどを周知する必要があると感じている。（事務局）

- ・トイレに相談先一覧を書いたカードを置くといった工夫が見られる。相談して良いのかという不安が行動にストップをかけていることもあるため、幼少期からの啓発が不可欠である。また、男性では男らしさが相談を躊躇わせている事例も出てきているため「らしさ」からの解放が課題と感じる。加害者の更生支援を行う方によると、男尊女卑が男性を縛り付け、その結果女性への被害に繋がっていることもあるため、GBV（ジェンダーに基づく暴力）が主流化してきている。

（萩原会長）

- ・資料編の掲載項目は現行計画からさほど変更しない想定か。（萩原会長）

→事業一覧と年表を追加する予定である。（事務局）

- ・これだけ素晴らしい計画があるにもかかわらず区民に認知されていないことが惜しい。昨今は区議会議員等がSNSを用いて周知を行っているため、この計画もそうした周知方法を模索することでより認知されるのではないかと。（岩下委員）

→ぜひ働きかけていきたい。（事務局）

（2） 今後のスケジュール（予定）

事務局より、今後の計画策定スケジュールについて説明。

（3） その他

意見なし